

平成22年度砺波市保育所・幼稚園のあり方懇談会（第3回）会議録（要旨）

- 1 開催日 平成22年8月2日（火）午後2時～午後4時
- 2 場所 砺波市役所 3階 小ホール
- 3 委員出席者 大石委員、沖田委員、金子委員、小西委員、澤田委員、四十万委員、高池委員、飛田委員
（太田委員、戸成委員欠席）
- 4 市側出席者 白江教育委員会事務局長、大浦教育総務課長、齊藤総務課長
岡田教育委員会課長保育所長、島田教育委員会課長幼稚園長、
安地保育幼稚園係長、坪田総務課行政係長、三部総務課行政係主任

5 内容

(1) 適正規模に対する意見

- ㊦ 適正規模について、職員数を考えると先生の休暇や休憩を配慮できる人数が必要である。
- ㊦ 人数が少ないのに幼稚園が設置されているのは疑問を感じる。
- ㊦ 幼稚園の稼働率は悪く、これでいいのかと思う。保育所はどこからでもは入れるが、幼稚園はそうでないのか。（どこからでもは入れるとの回答に）もっと幼稚園に誘導してはどうか。送り迎えのできる人は幼稚園でもいいのではないか。
- ㊦ 幼稚園は、家に人がいて預かることができる人が利用する場合が多い。当市は就業率が高く、また、核家族化により保育所に預ける人が多い。以前は、姑さんが働いていても定年が50歳ごろであり、家庭で孫守りをすることがあったが、定年が延びて姑さんがまだ働いていたり、嫁と姑の関係から姑に孫守りをまかせたくないという人もいる。これらの背景から保育所を選択する人が多いと思われる。
- ㊦ 適正規模と適正配置については大変難しい問題を有している。昭和の合併前後に地域の熱烈な支援により「幼児学級」というものが誕生した。それが今の幼稚園の原型であるが、設立の歴史や地域性を鑑みればそれを大切にしなければならない。軽々には判断できないが、歴史や地域を踏まえた議論が必要ではないか。
- ㊦ もともと旧庄川町には幼稚園がない。県内他市も幼稚園でなく保育所が多く、傾向としては保育所である。
- ㊦ 適正規模と適正配置を議論しなければならないそもそもの問題点は、少子化と財政難である。特に少子化が一番の問題であろう。
- ㊦ 保育所か幼稚園か、地域にある施設か地域外の施設か、選ぶのは子どもで

なく親である。子どもにとって何がいいかではなく、親にとって何がいいかという議論が必要ではないか。保護者の意見を踏まえた議論が必要だ。

- ㊦ 3か所の視察をしたが、北部こども園は、大人数であり、行事の場合は保護者も多くなることからどうしているのだろうかと思う。

児童数は市街地以外のところと市街地でないところの差が大きくなっていないかと思う。一部がマンモス化するのはいかがかと思う。

一方、高波幼稚園はさびしい感じであった。小学校に進学する時に環境に慣れないのではないかという心配があった。それに、スポーツをしようとしてもチーム編成すらできないようでは、どんなふうになっているのだろうかと思う。

チューリップ保育園は狭い感じがした。施設は大きいほうが環境としてはいいと思った。

- ㊦ 適正規模には「学級の規模」と「施設の規模」がある。学級の規模を考えると、使用規模なところは混合（複式）学級も考えてはいかがかと思う。
- ㊦ 雄神保育所では3、4歳児を複式としているが、市の基本的考えとしては年齢別のクラスが基本である。ただし、異年齢集団もよいのではないかとの考えもある。
- ㊦ 地区に幼稚園があるにもかかわらず、他の地域にある保育所に預けるといいうことに対して規制をかけられないのか。地区にある幼稚園に入園させるようにすれば、幼稚園は発展するのではないか。
 - ㊦ 規制はかけることができない。
 - ㊦ 規制がかけられないのであれば、幼稚園は早朝から夕方遅くまでして、夏休みも保育するようにすればいいのではないか。
 - ㊦ 幼稚園と保育所のシステムの違い、職員配置、や行政コスト等の面から困難である。
- ㊦ 鷹栖、東山見、雄神、種田は地域の児童数と入園園児数がピタリとはまっておき、流入流出がほとんどないように思える。このすべてが保育所であることに着目したい。
- ㊦ 富山市の保育所には30人を超えるクラスがあるが、「狭い」「うるさい」という感じがした。大人数はどうかと思う。
- ㊦ 数字だけをみるとどうしても効率を考えてしまう。効率ではない大事なものを忘れてしまいそうである。
- ㊦ 庄下保育所の規模やクラス配分がちょうどいいと思う。目の届く範囲の人数がこれだと思う。

(2) 保育所・幼稚園に対する意見

- ㊦ 制度的な問題もあるが、幼保の一元化は必要だと思う。
- ㊦ 先日学力テストの結果が報道された。「幼稚園に通っていた児童のほうが、

保育所に通っていた又はどちらにも通っていない児童に比べ点数が良い」との結果を文部科学省が発表したことに衝撃を受けた。教育は大切であるが、それをどう行政が表わしていくのか（幼稚園なのか・保育所なのか）ということが難しい。

- ㊦ 「こんにちは赤ちゃん事業」で家庭訪問しているが、7月に訪問した5軒のうち3軒の家庭から、「幼稚園に入りたいが地域に幼稚園がない」ないとの意見であった。専業主婦は幼稚園が欲しいと思っているのではないか。
- ㊦ 資料からは、幼稚園より保育所の需要が高まっているのではないかと思う。
- ㊦ 幼稚園は昔からあるというイメージであるし、保育所は働く人が増えた時代背景によってできた者というイメージがある。
- ㊦ 保育所と幼稚園の一元化は必要と考える。しかしながら、旧福岡町に設置された認定こども園はあまり評判がよくないと聞く。どのような問題があるのか情報がほしい。
- ㊦ 自分の子供は小規模園に通わせていた。何をするにも親子一緒にとても楽しかったことを覚えている。小規模園には小規模園の特色があり魅力がある。園の特色を打ち出すのも一つではないか。
- ㊦ 幼稚園は保育時間が短く選択されにくい傾向にある。地域や家庭に余力がなくなっているのではないか。
 - ㊦ 家庭の余力はなくなっていることは実感している。また、現場としては、保育所と幼稚園のシステムが別々なので不便であり一元化することが望ましいと思う。発達の度合いによって幼児は幼児らしく育つ規模があると思う。
- ㊦ 遠い保育所であっても子どもを預けて働かないといけないという就業・雇用の問題が背景にある。保育所を選ぶか幼稚園を選ぶかは、そういった親の都合によるものである。
- ㊦ 地域によって幼稚園や保育所が偏っている。それは、地域性や歴史が背景にある。しかしながら、地域性や歴史を語っても梅檀野幼稚園には人が入らないという現実があるし、般若幼稚園は1億円かけて改築しても人が来ない。思いはあっても現実が思い通りにならないとみじめな感じがする。
- ㊦ 幼稚園は住民の需要には合っていないが、歴史や地域的なものがあって、それが大きな壁になっていると思う。

(3) その他子育てに対する意見

- ㊦ 現在発達障害を有する児童は、学校にすんなりなじめる子どもと一緒にいる。すんなり行く児童なのか、行けない児童なのかは7歳までに判断することが必要で、専門的な人の教育が必要である。
- ㊦ 子育て支援センターが充実していてとてもいいと思うが、知らない人が多く、もっと利用啓発に努める必要がある。また、「遠くて行けない」という人もいる。